

春野の昔話 聞き取り書籍に

新宮池の大蛇など

静岡文化芸術大（浜松市中区）の文化政策学部で伝承文学を学ぶ二本松康宏教授のゼミ生が、天竜区春野町のお年寄り

から聞き取った地元の昔話や言い伝えを採録した本「春野のむかしばなし」（三弥井書店）を発刊した。（島将之）

文化芸大生 現地の69人から



ゼミでは同区水窪町、龍山町で採録した昔話を書籍化しており今回で五冊目。春野町では二〇一八年度か

ら三年がかりで調査して一年ごとに書籍化する計画で、初年は山深い熊切地区を対象に選んだ。

手掛けたのは、いずれも四年の伊藤優華さん(三)、藤井優さん(三)、吉高里さん(三)。現地に二十回以上足を運んで六十九人から聞き取り、二百八十九話を記録した。

このうち誰もが知る桃太郎の方言語りや、同町の新宮池の大蛇伝説など七十六話を掲載した。

学生らは十一日、天竜区役所を訪れ、岡部昌之区長に本を贈り活動への協力に謝意を示した。最初はうまく話を聞き出せず苦労したという吉高さんは「目に見える形になつて感無量」と振り返った。

表紙デザインは同大出身で北遠を舞台にした漫画をコミック誌に掲載する漫画家まるかわさんが担当した。A5判、百五十六ページ。千円（税別）。六百部を作り全国の書店で販売している。

発刊した本を岡部昌之区長(左)に贈る学生(右)＝天竜区役所で

2019.4.12

中日新聞（朝刊）16 ページ